

私が考える現在の埋立処分の課題
～地方自治体の埋立地から～

埼玉県環境科学国際センター
資源循環・廃棄物担当
磯部 友護

2017年9月8日(金) 11:00～12:30
第28回廃棄物資源循環学会研究発表会 埋立処理処分研究部会



2014年10月



2016年9月

なぜ水没してしまったのか

2014年以前	通常は焼却灰と不燃残さのみを埋め立てていた
2014～2015年	一時的に飛灰固化物(約
2015年11月	浸出水ポンプが停止(配
2016年2～4月	配管修繕, 仮設ポンプ設
2016年6月	2016年6月に仮設ポンプ このころから場内水位が
2016年8月上旬	水位がGL-1mまで上昇



配管閉塞状況



仮設ポンプへのスケール付着状況

	廃棄物の搬入停止(12月
2016年9月	仮設ポンプ交換, 配管修繕 場内池内にポンプ設置(修繕費210万円)
2017年5月	場内水位GL-0.6mまで低下(最終的な総額450万円超)

なぜ水没してしまったのか

一時的に埋立廃棄物が変わったことによる浸出水質の変質が要因（飛灰固化物）

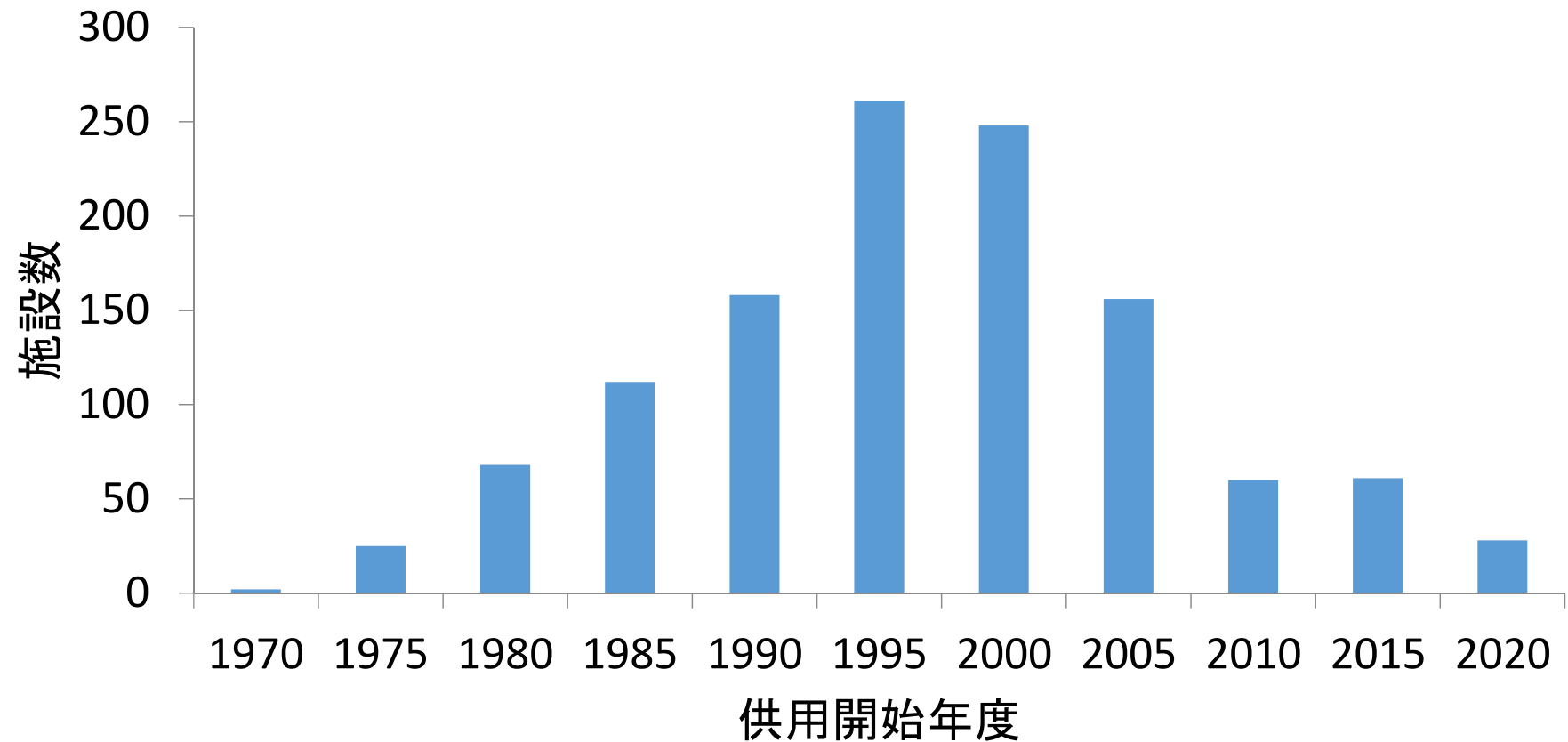
別の埋立地で似たような事例も・・・

焼却施設の更新（溶融炉）への切り替えに伴い、飛灰固化物の性状が変わったことにより、浸出水質が変質してしまった。

この結果、水処理施設がこれまでの処理方法では放流水質基準をクリアできなくなり、施設の一部改修を行わざるを得なかった。

原因調査や施設改修の間、水処理施設が稼働できず浸出水が内部貯留し、一部で冠水してしまう事態となった。

一般廃棄物焼却施設の更新はこれから？



環境省一般廃棄物処理実態調査結果より作成

考えられる今後の課題は

- 焼却施設の更新に伴う埋立廃棄物の変質
- 焼却灰のリサイクル率増加に伴う埋立廃棄物の変質
- これに伴う浸出水質の変化
- ゲリラ豪雨, 台風の頻発による内部貯留や浸出水量の増大

現在の埋立地は, 今後, 起こりうるこれらの事象に技術的・財政的に対応できるのか。

埋立地の管理業務において事故等以外への危機管理意識を向上させる必要があるのではないか。